

経済情勢

（6月の経済指標を中心に）

（全国）景気は、緩やかに持ち直しているものの、一部に弱さがみられる。
（中国）景気は、持ち直しの動きに足踏みがみられる。
先行きについては、米国の通商政策、金融市場の変動、物価上昇などによる経済活動への影響に注意する必要がある。

（全国）

個人消費	一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる
住宅投資	新設住宅着工戸数（6月）は前年を下回った
設備投資	機械受注（6月）は、前年を上回った
公共投資	公共工事請負額（6月）は前年を上回った
輸出	輸出金額（6月）は前年を下回った
生産動向	横ばい圏内ながら、一部に弱さがみられる
雇用情勢	改善の動きに足踏みがみられる

（中国）

個人消費	一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる
住宅投資	新設住宅着工戸数（6月）は前年を下回った
公共投資	公共工事請負額（6月）は前年を上回った
輸出	輸出金額（6月）は前年を下回った
生産動向	このところ弱含んでいる
雇用情勢	改善の動きに足踏みがみられる

1. 景気動向指数・景気ウォッチャー調査(6月)

景気動向指数(全国C I)は、一致指数は2カ月ぶりに上昇、先行指数は2か月連続で上昇した。

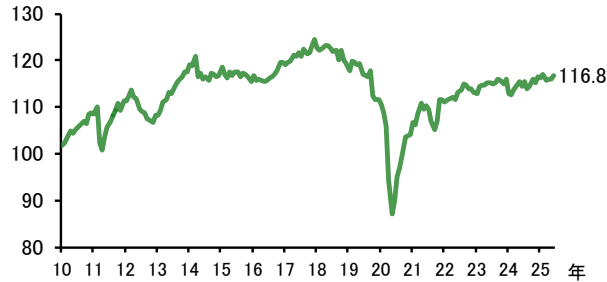
景気ウォッチャー調査(現状判断D I)は、全国は2か月連続で上昇、中国は3か月連続で上昇した。

● 景気動向指数(C I)

(一致指数)

・116.8(前月差+0.8ポイント)と2カ月ぶりに上昇。

(2020年=100)



C I 一致指数(前月差) 0.8

指標名	寄与度
輸出数量指数	0.49
鉱工業生産指数	0.27
投資財出荷指数(除輸送機械)	0.26
商業販売額(卸売業)	0.25
営業利益(全産業)	0.20
労働投入量指数(調査産業計)	0.01
商業販売額(小売業)	0.01
耐久消費財出荷指数	▲0.18
鉱工業用生産財出荷指数	▲0.19
有効求人倍率(除学卒)	▲0.38

(先行指数)

・106.1(前月差+1.3ポイント)と2か月連続で上昇。

(2020年=100)



C I 先行指数(前月差) 1.3

指標名	寄与度
新設住宅着工床面積	0.81
消費者態度指数	0.66
マネーストック(M2)	0.35
東証株価指数	0.05
日経商品指数(42種総合)	0.04
最終需要財在庫率指数(逆)	▲0.11
新規求人数(除学卒)	▲0.22
中小企業売上げ見通しD I	▲0.26
鉱工業用生産財在庫率指数(逆)	▲0.43
実質機械受注(製造業)	
投資環境指数(製造業)	

注:1. 景気動向指数(CI)は景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としている。資料は内閣府「景気動向指数(速報)」。

2. 景気動向指数とは、生産、雇用など重要かつ景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の現状把握および将来予測に資するために作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3本の指数がある。

● 景気ウォッチャー調査(D I)

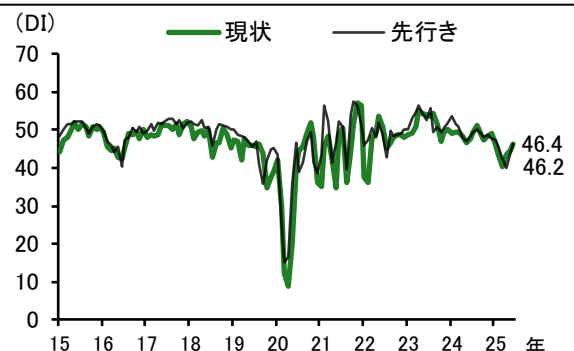
(全国)

- ・現状判断D Iは、45.0(前月差+0.6ポイント)と2か月連続で上昇。
- ・先行き判断D Iは、45.9(前月差+1.1ポイント)と2か月連続で上昇。



(中国)

- ・現状判断D Iは、46.2(前月差+1.8ポイント)と3か月連続で上昇。
- ・先行き判断D Iは、46.4(前月差+2.5ポイント)と2か月連続で上昇。



注:1. 景気ウォッチャー調査は、地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的としている。資料は内閣府「景気ウォッチャー調査」。

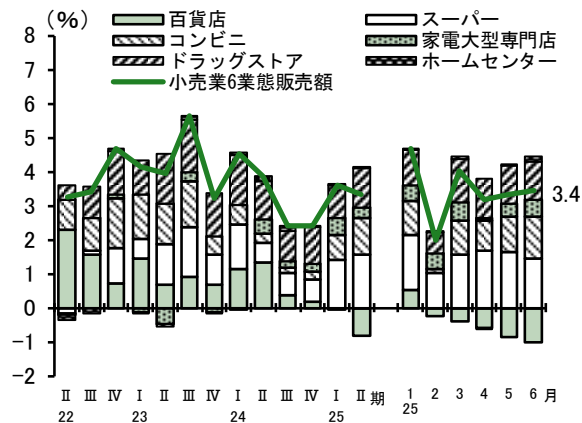
2. 季節調整値

2. 個人消費（6月）

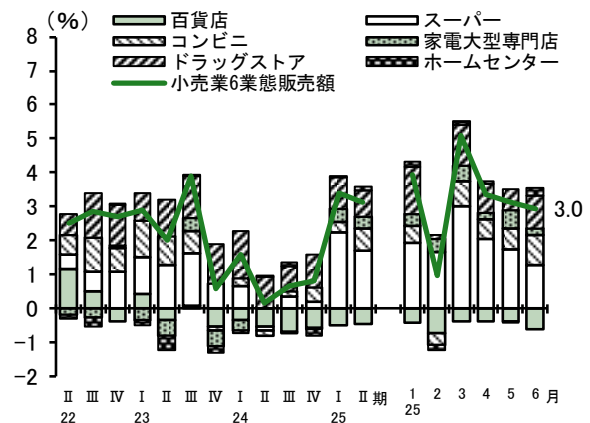
全国、中国ともに一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる。

● 小売業6業態販売額 [対前年伸び率]

(全国) スーパー、コンビニなどを中心に増加し、43 カ月連続で前年比プラス（前年同月比+3.4%）。消費傾向としては、買い上げ点数の減少や安価商材へのシフトといった節約志向がみられる。インバウンド需要の一巡も要因となり百貨店の減少が続くものの、コメなどを中心に食料品価格の高騰が販売額全体を押し上げている。



(中国) スーパー、コンビニなどを中心に増加し、8 カ月連続で前年比プラス（前年同月比+3.0%）。全国同様、消費傾向としては、買い上げ点数の減少や安価商材へのシフトといった節約志向がみられる。コメなどを中心に食料品価格の高騰が販売額全体を押し上げているほか、今月は気温の上昇により飲料や季節家電にも動きがみられた。

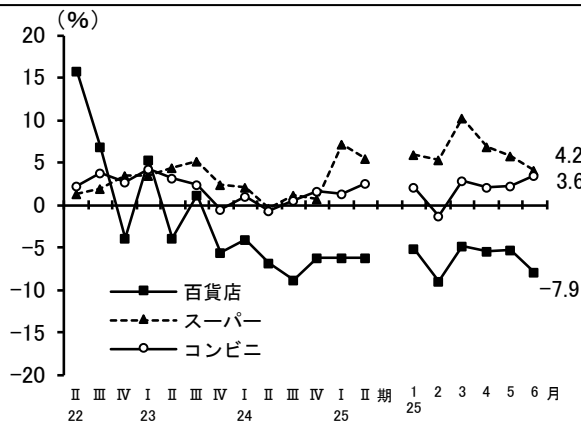


注：1. 全店舗ベース 2. 小売業6業態は、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンター
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

○ 百貨店・スーパー・コンビニエンスストア販売額 [対前年伸び率]

(中国)

- 百貨店は、広島駅の大型商業施設の開業に加え、気温上昇により客足が減少したことなどから、22 カ月連続で前年比マイナス（前年同月比▲7.9%）。
- スーパーは、価格上昇によりコメなどの販売額が伸びたほか、気温の上昇により飲料やアイスなどが良く売れたことなどから、8 カ月連続で前年比プラス（同+4.2%）。
- コンビニは、コメ類の価格上昇からおにぎりなどが販売額を伸ばしたほか、気温の上昇により飲料やアイスなどがよく売れたことなどから、4 カ月連続で前年比プラス（同+3.6%）。

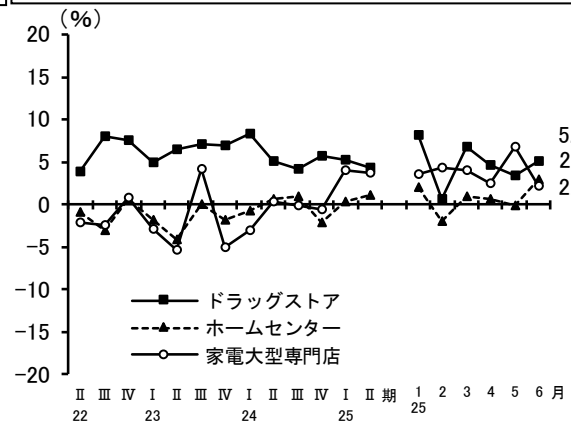


注：全店舗ベース
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

○ ドラッグストア・ホームセンター・家電大型専門店販売額 [対前年伸び率]

(中国)

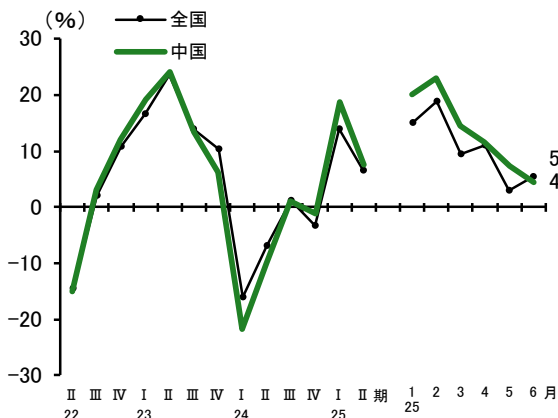
- ドラッグストアは、価格上昇によりコメの販売額増加が続くほか、調剤薬局併設店舗の増加で医薬品などが好調に推移し、42 カ月連続で前年比プラス（前年同月比+5.2%）。
- ホームセンターは、価格上昇により紙製品や洗剤などが好調に推移したほか、気温上昇により扇風機などが売れたことなどから、2 カ月ぶりに前年比プラス（同+2.9%）。
- 家電大型専門店は、販売促進効果によりエアコンや携帯電話の販売額増加が続くほか、新型ゲーム機が好調だったことなどから、8 カ月連続で前年比プラス（同+2.1%）。



● 新車登録・届出台数(乗用車) [対前年伸び率]

(全国) 普通乗用車が減少したものの、軽、小型乗用車が増加し、6 カ月連続で前年比プラス(前年同月比+5.5%)。認証不正問題等の影響により前年が低水準だった反動からプラスが続いているものの、このところ伸び幅は縮小している。

(中国) 普通乗用車が減少したものの、軽、小型乗用車が増加し、6 カ月連続で前年比プラス(同+4.3%)。全国同様、前年の反動によるプラスが続いているものの、前年同期には回復に向かいつつあったことから、これまでの押し上げ効果が剥落し、伸び幅は縮小している。

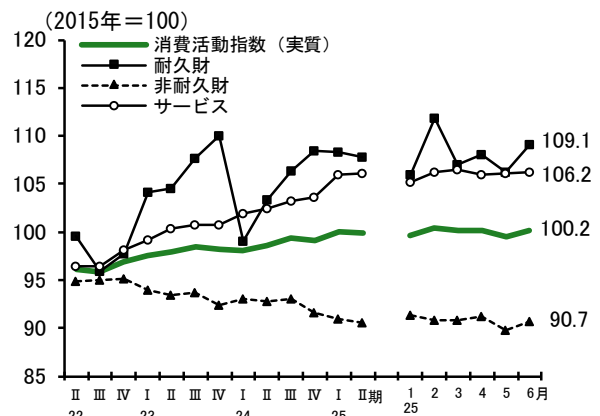


資料：中国運輸局「新車登録・届出状況」、
(一社)全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売統計」

● 消費活動指数(実質)

(全国) 消費活動指数(季節調整済)は100.2(前月比+0.7%)と、4 カ月ぶりに前月を上回った。

- ・耐久財は、自動車や家電が伸長したことなどから、前月を上回った。
- ・非耐久財は、夏物衣料などが好調に推移したことなどから、前月を上回った。
- ・サービスは、猛暑の影響等により、飲食業や宿泊業が低調だったものの、娯楽業が好調に推移し、前月を上回った。



注：1. 季節調整済指数

2. 消費活動指数の形態別ウエイトは、耐久財 8.9、非耐久財 40.5、サービス 50.7

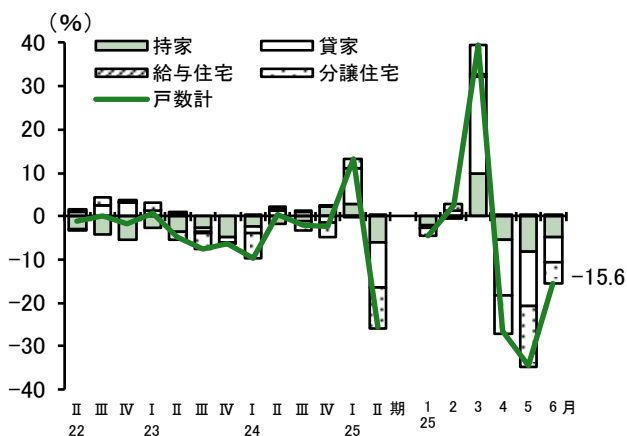
資料：日本銀行「消費活動指数」

3. 住宅投資(6月)

新設住宅着工戸数は、全国、中国ともに前年を下回った。

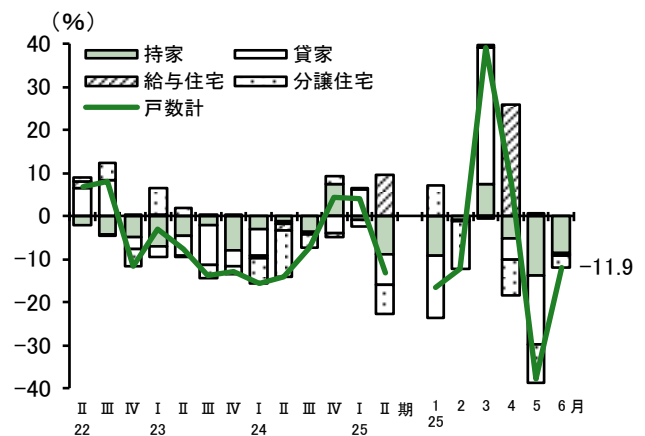
● 新設住宅着工戸数 [対前年伸び率]

(全国) 建築基準法等改正施行前の駆け込みにより3月に着工が集中した反動等から低水準となっている。給与住宅が若干増加したものの、貸家、分譲住宅、持家が減少し、3 カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲15.6%)。



注：持家、貸家、給与住宅、分譲住宅は、新設住宅着工戸数の対前年伸び率に対する利用関係別寄与度
資料：国土交通省「建築着工統計調査報告」

(中国) 建築基準法等改正施行前の駆け込みにより3月に着工が集中した反動等から低水準となっている。持家、分譲住宅、貸家、給与住宅がいずれも減少し、2 カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲11.9%)。



4. 設備投資・公共投資（6月）

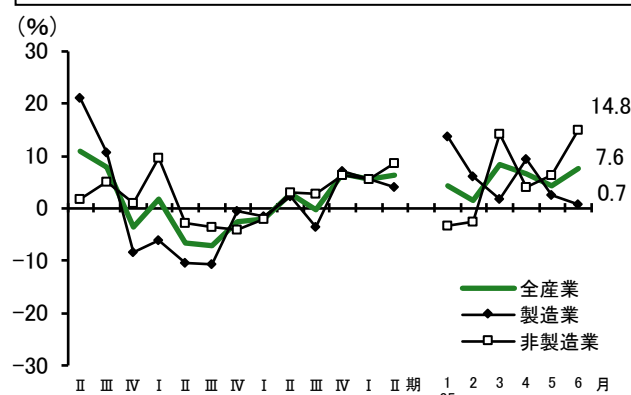
機械受注（全国）は、製造業、非製造業ともに前年を上回った。

公共工事請負額は、全国、中国ともに前年を上回った。

● 機械受注額 [対前年伸び率]

（全国）

- ・ 9 カ月連続で前年比プラス（前年同月比+7.6%）。
- ・ 製造業（同+0.7%）は、造船業などが減少したものの、非鉄金属や電気機械などが増加し、9 カ月連続で前年比プラス。
- ・ 非製造業（同+14.8%）は、運輸業・郵便業などが高い伸びとなったほか、通信業、金融業・保険業なども増加したことから、4 カ月連続で前年比プラス。



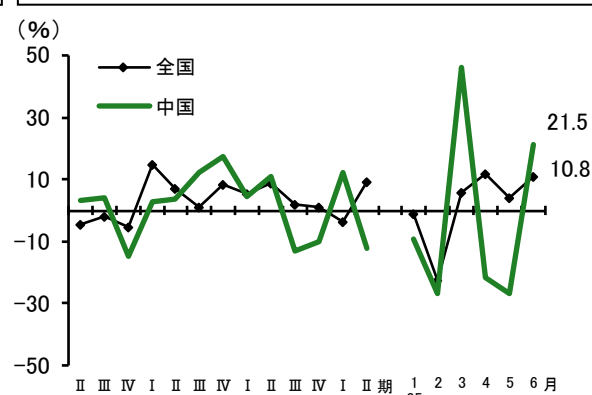
注：機械受注額は民需の合計であり、全産業、非製造業とも船舶・電力を除く数値

資料：内閣府「機械受注統計調査報告」、北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

● 公共工事請負額 [対前年伸び率]

（全国）その他公共団体、独立行政法人等からの発注が減少したものの、都道府県、市区町村、国からの発注が増加し、4 カ月連続で前年比プラス（前年同月比+10.8%）。

（中国）その他公共団体、市町村からの発注が減少したものの、独立行政法人等からの発注が高い伸びとなったほか、国、都道府県からの発注も増加し、3 カ月ぶりに前年比プラス（同+21.5%）。



5. 輸出・輸入(6月)

輸出金額は、全国、中国ともに前年を下回った。

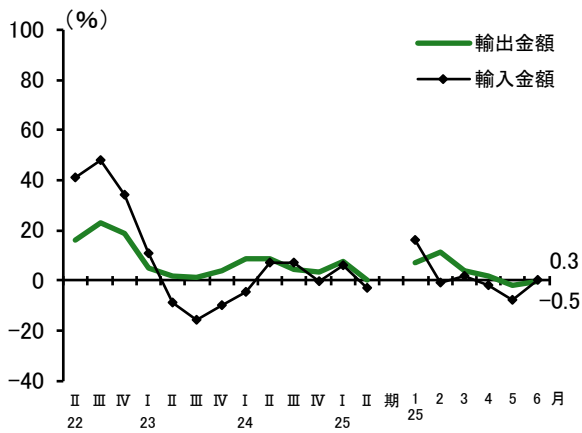
● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

(全国)

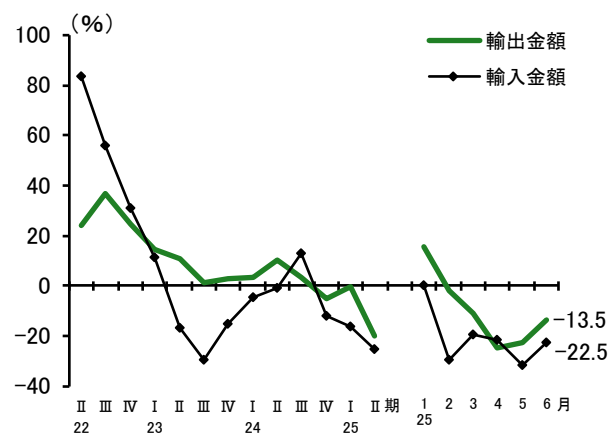
- ・輸出金額は2カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲0.5%)。円安による輸出金額の押し上げが続いていたが、このところ円高による剥落がみられる。品目別では、自動車、鉄鋼などの輸出額が減少した。ただし、追加関税発動の影響を受けつつも、米国向け自動車輸出台数は前年を上回った。
- ・輸入金額は3カ月ぶりに前年比プラス(同+0.3%)。円高への振れや市況価格の下落に伴い、原油や石炭などの鉱物資源が減少したものの、医薬品や通信機などが増加した。

(中国)

- ・輸出金額は5カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲13.5%)。自動車は欧州以外の仕向け地で金額・数量の減少が大きく、マイナスの主要因となった。また、ウエイトの大きな化学や鉄鋼の需要低迷が続いていることから、このところ全国と比べ落ち幅が大きくなっている。
- ・輸入金額は5カ月連続で前年比マイナス(同▲22.5%)。円高への振れや市況価格の下落に伴い、原油や石油製品(揮発油)などの鉱物資源が減少した。



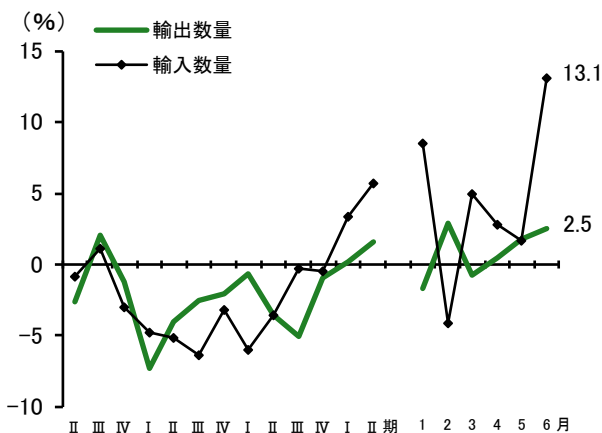
注：1. 輸出金額、輸入金額は円ベース 2. 輸出確報；輸入速報(9桁)
資料：財務省「貿易統計」、神戸税関「中国圏・各県貿易統計」



● 輸出・輸入数量 [対前年伸び率]

(全国)

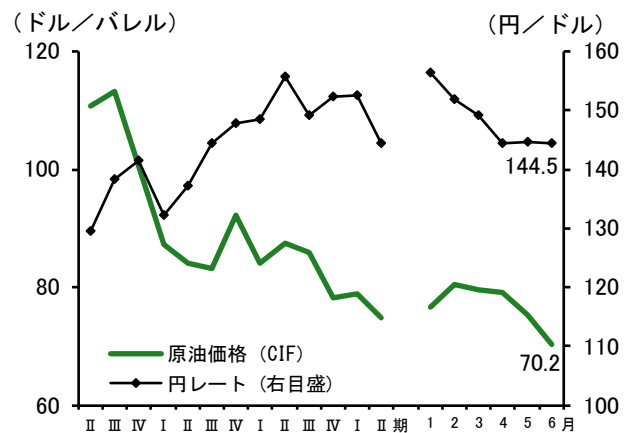
- ・輸出数量は3カ月連続で前年比プラス(前年同月比+2.5%)。
- ・輸入数量は4カ月連続で前年比プラス(同+13.1%)。



注：1. 輸出数量、輸入数量とも2015年=100とした指数 2. 輸出確報；輸入速報(9桁) 3. 原油価格は全日本通関CIF価格
4. 円レートは東京外国為替市場の銀行間中心レートの月中平均値
資料：財務省「貿易統計」

● 原油価格・円レート

- ・原油価格は70.2ドル/バレルと前年に比べ17.7ドル低下(前月に比べ5.1ドル低下)。
- ・円レートは144.5円/ドルと前年に比べ13.3円の円高(前月と比べると0.3円の円高)。



6. 生産動向 (6月)

(全国) 横ばい圏内ながら、一部に弱さがみられる。

(中国) このところ弱含んでいる。

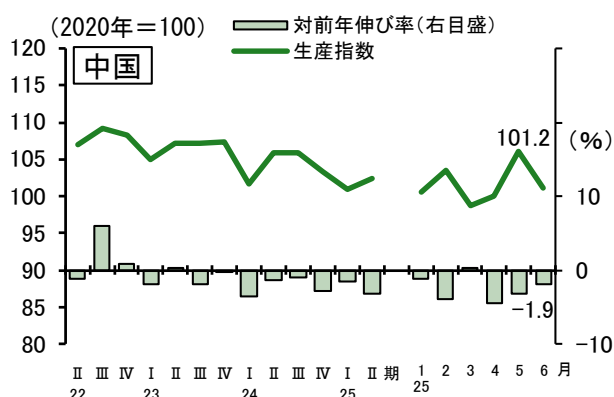
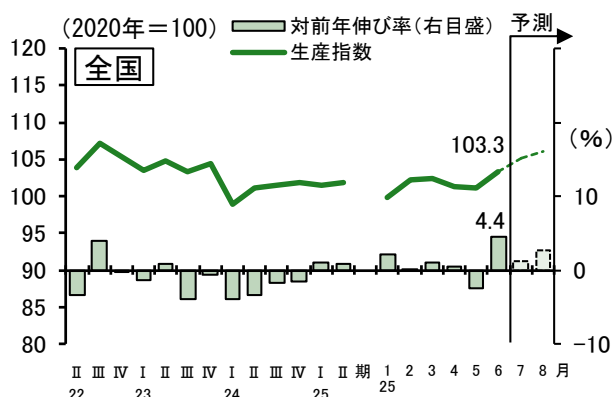
● 鉱工業生産指数 (総合)

(全国)

- 生産指数 (季節調整済) は、103.3 (前月比+2.1%) と3カ月ぶりに前月を上回った。化学などが低下したものの、汎用・生産用・業務用機械、電気機械、自動車などが上昇した。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比+4.4%と2カ月ぶりにプラスとなった。

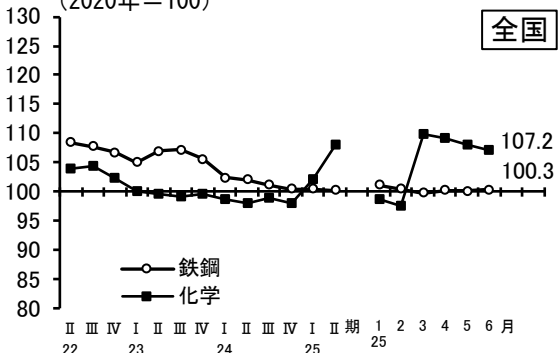
(中国)

- 生産指数 (季節調整済) は、101.2 (前月比▲4.5%) と3カ月ぶりに前月を下回った。医薬品を中心とする化学や鉄鋼などが上昇したものの、4-5月が高い伸びとなった反動等から、電気機械や自動車、汎用・生産用・業務用機械などが大きく低下した。
- 生産指数 (原指数) は、前年同月比▲1.9%と3カ月連続でマイナスとなった。

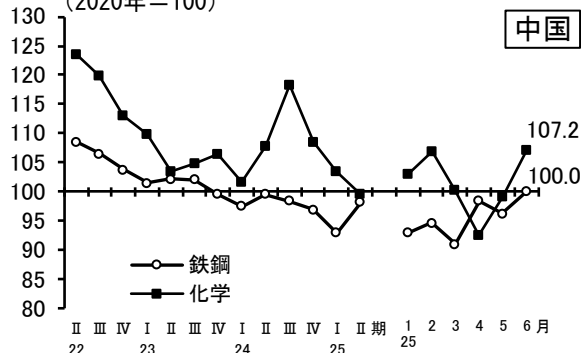


● 鉱工業生産指数 (素材)

(2020年=100)

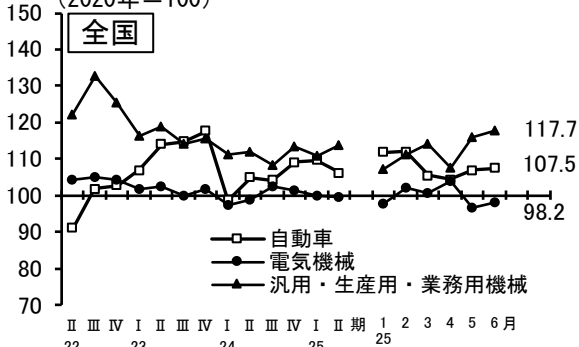


(2020年=100)

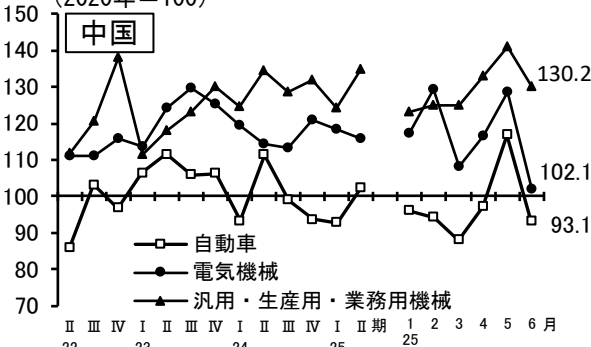


● 鉱工業生産指数 (機械)

(2020年=100)



(2020年=100)



注：1. 生産指数は季節調整済指数 2. 生産指数の対前年伸び率は原指数による 3. 予測値は「製造工業生産予測調査」の製造業の値を基に算出 4. 中国の最新月(速報値) 5. 全国は2023年4月確報分、中国は2024年1月速報分より、鉱工業指数の基準年が2015年から2020年に改定された 6. 「電気機械」は全国では1995年基準の業種分類を適用(電気機械工業、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業の合計) 7. 「汎用・生産用・業務用機械」は全国では「汎用・生産用・業務用機械工業」、中国では「汎用・業務用・生産用機械工業」 8. 「自動車」は中国では「自動車(乗用車・トラック・主要部品)」

資料：経済産業省「鉱工業(生産・出荷・在庫)指数確報」「製造工業生産予測調査」、中国経済産業局「中国地域鉱工業生産動向」

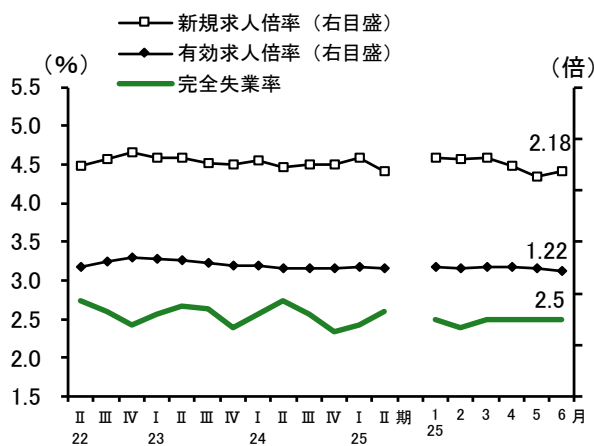
7. 雇用情勢(6月)

全国、中国ともに、改善の動きに足踏みがみられる。

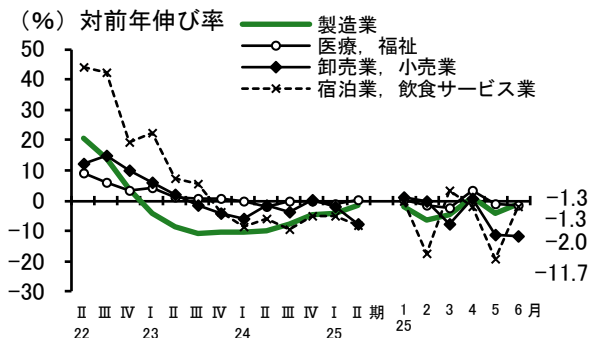
● 完全失業率、有効求人倍率、新規求人倍率

(全国)

- ・完全失業率は2.5% (前月差±0.0ポイント) と横ばい。
- ・有効求人倍率は1.22倍 (同▲0.02ポイント) と2カ月連続で低下した。
- ・新規求人倍率は2.18倍 (同+0.04ポイント) と3カ月ぶりに上昇した。



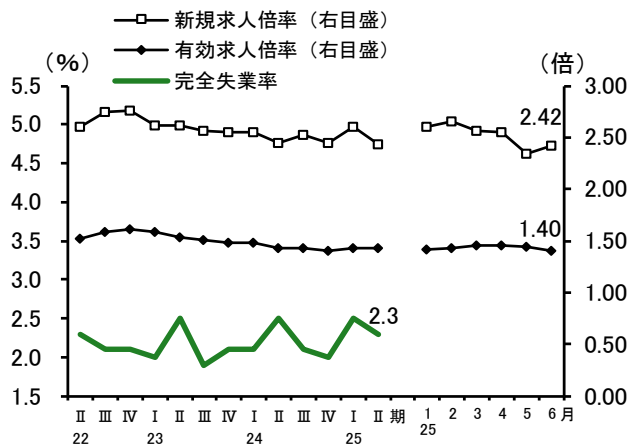
主要産業における新規求人数の推移(全国)



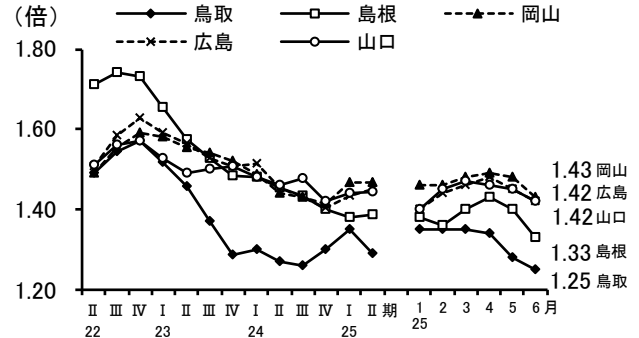
注：完全失業率の月次、有効求人倍率、新規求人倍率は季節調整値、完全失業率の四半期は原数値
資料：総務省「労働力調査報告」、厚生労働省「職業安定業務統計」

(中国)

- ・4-6月期の完全失業率(原数値)は2.3%と、前年同期と比べ0.2ポイント低下した。
- ・有効求人倍率は1.40倍(前月差▲0.04ポイント)と2カ月連続で低下した。
- ・新規求人倍率は2.42倍(同+0.08ポイント)と4カ月ぶりに上昇した。



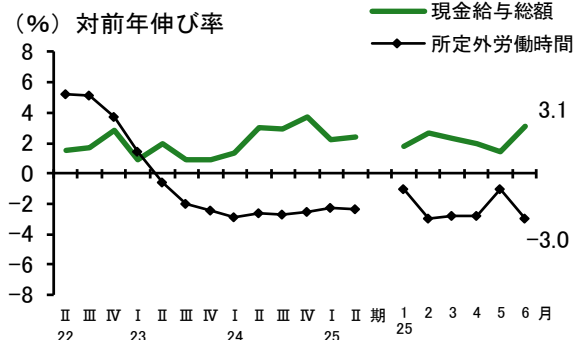
有効求人倍率の推移(中国5県)



● 現金給与総額、所定外労働時間

(全国)

- ・現金給与総額は42カ月連続で前年比プラス(前年同月比+2.5%)。
- ・所定外労働時間は、24カ月連続で前年比マイナス(同▲3.0%)。うち製造業は6カ月連続で前年比プラス(同+1.6%)。



注：1. 事業所規模5人以上の指数(2020年=100)の対前年伸び率 2. 最新月は速報値
資料：厚生労働省「毎月勤労統計調査」